

## 令和4年度 研究概要

<p>所属名</p> <p>カリキュラムセンター</p>	<p>研究会議名</p> <p>体育・保健体育科研究会議</p>
<p>研究主題</p>	<p>自己と仲間のよさと課題を見付け伝え合う体育学習 －考えを共有する活動を通して－</p>
<p>育成を目指す 資質・能力</p>	<p>思考力、判断力、表現力等（自己と仲間のよさや課題を見付け、伝える力）</p>
<p>研究内容</p>	<p>平成29年告示の学習指導要領では、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。また、体育では、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成に向けて、児童生徒が、身に付けた知識及び技能を活用し、仲間と関わりながら課題発見・課題解決をする学習を通して、運動への意欲を高める体育学習の実現が求められている。</p> <p>しかし、運動に苦手意識をもっている児童生徒は、活動中に失敗を恐れて挑戦を拒む姿や作戦会議等の話し合いで受け身になり自分から発信できない姿、分からないことがあっても自分から聞くことに躊躇する姿が見られること等が研究会議の中で課題として挙げられた。</p> <p>本研究会議では、運動が苦手な児童生徒も、自己のよさを認識したり、課題解決に向けて仲間から励ましを受けたりすることによって、安心して前向きに学習に取り組むことができるのではないかと考えた。そこで、自己と仲間のよさと課題を見付け伝え合う姿に着目し、教師の具体的な手立てについて研究を進めることとした。</p> <p>どの単元においても、研究主題に迫る手立てを、種目の特性と児童生徒の発達の段階に応じた「考えを共有する活動の設定」とした。小学校低学年では、マットを使った運動遊びの単元において、仲間のよい動きや考えを教師が紹介し、クラスで共有する「みてみてタイム」を設定する。仲間の運動を「みる」ことに意識を向け、児童が新たな楽しみ方や動き方を見付け伝え合うことをめざす。小学校高学年では、マット運動の単元において「集団シンクロマット」を取り入れる。グループで1つの演技を創作することを通して、グループの目標に向けて一人一人が自分のめあてを明確にもち、その達成に向けて互いのよさや課題を見付け伝え合うことをめざす。中学校1年生では、バレーボールの単元において、チーム内でペアを組み、役割を交替しながら取り組むゲームを取り入れる。ゲーム内での役割を明確にすることで、生徒同士が互いの動きについて具体的に考え、伝え合うことをめざす。また、GoogleJamboardを使用して一人一人のゲームの振り返りをクラス全体で共有し、自己やチームの活動に生かすことができるようにする。</p> <p>どの授業においても、児童生徒が仲間のよさや一緒に活動することの必要性を感じることができるよう、教師は児童生徒同士の動きや考えをつなぐこと、児童生徒自身の学びをつなぐことを意識して単元を計画する。</p> <p>「自己と仲間のよさや課題を見付け伝ええているか」について、着目児童生徒の授業内での言動、学習ノートの記述内容、事前事後のアンケート調査、インタビュー調査から分析し、教師が講じる手立ての有効性を検証する。</p>